

# うちの週末<sub>vol.5</sub>

～気ままに子どもと森あそび♪～

こんにちは。御代田町在住のチェリーです。

先日、今の家に引っ越して7年目にして初めて庭でヘビを見ました。ヤマカガシという毒を持つヘビです。子どもたちが、「ヘビがいるー!!!」「毒はある?」「噛まれる?」と大騒ぎするので、「そっとしておいてあげれば、噛んだりしないよ。」と伝えただけですが、よくよく調べてみるとマムシより強い毒を持つのだそう。奥歯と首の後ろに毒があり、奥歯で噛まれたら危ないとか。首の後ろの毒は、毒を持つヒキガエルを食べることで持つようになる毒だとか。生き物としてはとても面白くて、食事時に話が盛り上がりましたが・・・、我が家の次男は考えるよりも先に手が出るタイプ。そして、まるでムツゴロウさんのように、全く躊躇なく近づいて触れ合ってしまうので、さすがに危ないと思い「噛まれたら死ぬから1人で近づかないで」と念を押しておきました。

(普通は噛まれることはありませんのでご安心を!)でも、庭にヘビがいるなんて面白いですね。7年目にして初めて見かけた生き物に心が踊りました♪イノシシやリスが家の中から見られたり、歯磨きをしているとキジと目が合ったり、思いがけない出合いに毎日楽しませてもらっています。

さて、今回は息子たちの生き物との触れ合い方を紹介したいと思います。生き物好き母ちゃんの子で育つ息子たちなので、気になる生き物は何でも捕まえて観察します。先日のこと、次男がアマガエルを次々捕まえ、5匹も左手で捕獲していました。次々にカエルたちは逃げ出そうとするのですが、絶妙な加減で手で掴み直して、大事そうにアマガエルと遊んでいたのです。カエルが苦手な方には、かなりシュールな光景ですが、生き物を傷つけず掴む力加減を習得している息子を見て成長を感じました。ここまで至るまでに、数々の虫や生き物を傷つけ、命を奪ってしまったこともたくさんありましたが、自分の手の中で息絶えていく虫や、捕まえることで弱ってしまった生き物を見た経験から、小さな生き物にも大切な命があることを学びつつあるようです。生き物との距離間は、捕まえて触れて、観察する経験の積み重ねから習得していくものだと思います。小さな生き物を傷つけてしまった時、その生き物の痛みを代弁する言葉をそっと子どもにかけてあげることで、大きな出来事として心に残り、生き物の命を理解していくように思います。遊びの中で、生き物への知的好奇心を育むとともに、大切なことを学んでいるようです。

